

琴
賽擬選軍

曲亭馬琴著
和漢撮合
初編上帙
每篇八局合本
歌川國安繪画

13
3057
1



13
3057-3

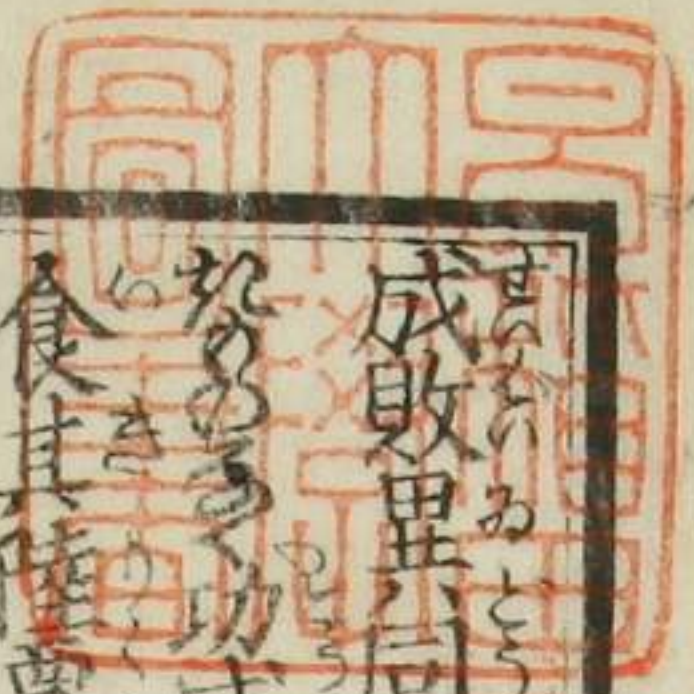
門へ 13
號 3057
卷 1

擬選軍談初編序

每篇八号合本四册
上下二帙每帙二册

漢楚の闘戦と頼朝義仲両雄の確執の綴易とて這物本を作ると
抑清盛の泰始皇は似る頼政の陳涉に似る頼朝の漢高祖に似る政子の
呂后に似る時政義時諸呂に似る牧子の呂須に似る義経の韓信に
似る伊東祐親入道の田横に似る廣元善信の蕭荷曹參と相似る

壹



成敗異同ありとも亦その趣を究めしむる帝頼朝の臣時政の誓の焚燬の如
なる功成名遂を身退る張子房の如き智辯敵を欺く不足の鄒
食其陳賈の如き諸呂を誅して漢室を全せ陣平周勃の如き
無の些許似るを撮合して一人多三人の事とて壁下邨の圮橋の張
良の牛若らね不可る如き蓋漢楚の貞史記漢書の正史ありて演
義中も亦綴るを又譯せ通俗の漢林楚軍談とあるを婦幼の得もなく
欲せむ讀むといふも解し易らぬ異邦の軍記なまらぬ夫江南の橋に
江北の裁られぬ和とるもの便風土の妙なる漢楚演義の二書も
予が架上に措く死の憂なく本邦の軍記とるも又風土に似る
實の時好推當たる作者の津間と考ゆ

文政十二己丑年春正月吉日新版

曲亭馬琴識



漢楚賽擬選軍談初編序

每篇八号 合本四册
上下二帙 每帙二册

漢楚賽擬選軍談初編序
 智者自適之流行の先達之庸才の自適之遊所は遊に常の
 流行と追ふの果敢る冊子物語時好の慍へ行き慍され行れ書
 林永吉可堂のあつるや有けん傾城水滸伯仲と死新著もあつる
 請ふされ唐山の稗史の西遊水滸の二書の外又翻案せられたるもの
 漢楚の闘戦と頼朝義仲の確執の綴易くして這物の本を作せり
 抑清盛の秦始皇に似る頼政の陳涉に似る頼朝の漢高祖に似る政子の
 呂后に似る時政義時諸呂に似る牧子の呂須に似る義経の韓信に
 似る一々の前輩聊評論の讀書者の話柄の生あり只是のふあふと
 義仲の項羽に似る覚明の范増に似る色の季布に似る兼光の鐘離昧に
 似る伊東祐親入道の田横に似る廣元善信の蕭荷曹參と相似る



成敗異同ありとも亦その趣あるのみを帝頼朝の臣時政の塔の樊噲の如
 なるもの功成名遂く身退る張子房の如きもの智辯敵と欺く不足る鄒
 食其陳賈の如きもの諸呂と誅して漢室を全せ陣平周勃の如きもの
 無の些許似つるを撮合して一人の事と成壁言下邳の圯橋の張
 良の牛若多らね不可多か如き蓋漢楚の真史の史記漢書の正史あはを演
 義の中も亦綴るを又譯せ通俗の漢楚軍談とあるを婦幼の行もせず
 欲せむ讀むといふも解し易らぬ異邦の軍記なまひり夫江南の圯橋に
 江北の栽られぬ枳とさるもの便風土の妙なる漢楚軍談の二書も
 予が架上は措と死の變とく本邦の軍記とるをり又風土にのなる
 實と時好の推當たる作者の津間と志せ給か

文政十二己丑年春正月吉旨新版 曲直下馬琴下識





擬泰始皇
平相国
入道清盛

草も本もるびけハ

丁そあ終母のまのよ

横帯破家
窓の秋風

頼朝



擬泰丞相李斯

平家執權

阿波民部大夫

成良

代りて心る

番匠

成らぬ

素ね

うちいらぬ

雷

水

妹尾太郎
弟安



擬秦趙高
秦木工頭長高

擬趙高之
背圖樂
後藤兵衛守長

時めくも
老むるけり

あめ乃下
げ子傘張弘

平大臣宗盛

擬秦二世胡史

此本定書刀編



擬秦太子扶蘇
小松大臣重盛

神祈

うせめと
人との田川
清子の浄衣乃

色ふ足ゆれ

擬秦大將軍蒙恬

豊後左衛門尉

頼弘

此本定書刀編



擬高祖之
 平政子
 擬高祖之
 平政子
 擬高祖之
 平政子

擬漢高祖
 右大將
 頼朝



擬
 義仲
 旭將軍
 王項羽
 楚霸王
 山拔
 木曾の朝日
 粟津陣
 松殿山吹姫

擬項羽后
 松殿山吹姫

その状...と成敗...
軍兵...
世...
古...
伊...



その状...と成敗...
軍兵...
世...
古...
伊...
伊...
伊...
伊...





よその... 世の... 白... 清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思...

清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思...



よその... 世の... 白... 清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思...

清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思... 清和天皇御成吉思...

かゝるもの多きは下向の事にて云々
 久の久の事なるは思ひありしに
 今の事なるは思ひありしに
 仙の事なるは思ひありしに
 天の事なるは思ひありしに
 地の事なるは思ひありしに
 人の事なるは思ひありしに
 物の事なるは思ひありしに
 事なるは思ひありしに
 業なるは思ひありしに
 徳なるは思ひありしに
 福なるは思ひありしに
 運なるは思ひありしに
 命なるは思ひありしに
 魂なるは思ひありしに
 魄なるは思ひありしに
 精なるは思ひありしに
 神なるは思ひありしに
 靈なるは思ひありしに
 魂なるは思ひありしに
 魄なるは思ひありしに
 精なるは思ひありしに
 神なるは思ひありしに
 靈なるは思ひありしに



仙の事なるは思ひありしに
 天の事なるは思ひありしに
 地の事なるは思ひありしに
 人の事なるは思ひありしに
 物の事なるは思ひありしに
 事なるは思ひありしに
 業なるは思ひありしに
 徳なるは思ひありしに
 福なるは思ひありしに
 運なるは思ひありしに
 命なるは思ひありしに
 魂なるは思ひありしに
 魄なるは思ひありしに
 精なるは思ひありしに
 神なるは思ひありしに
 靈なるは思ひありしに

仙の事なるは思ひありしに
 天の事なるは思ひありしに
 地の事なるは思ひありしに
 人の事なるは思ひありしに
 物の事なるは思ひありしに
 事なるは思ひありしに
 業なるは思ひありしに
 徳なるは思ひありしに
 福なるは思ひありしに
 運なるは思ひありしに
 命なるは思ひありしに
 魂なるは思ひありしに
 魄なるは思ひありしに
 精なるは思ひありしに
 神なるは思ひありしに
 靈なるは思ひありしに



仙の事なるは思ひありしに
 天の事なるは思ひありしに
 地の事なるは思ひありしに
 人の事なるは思ひありしに
 物の事なるは思ひありしに
 事なるは思ひありしに
 業なるは思ひありしに
 徳なるは思ひありしに
 福なるは思ひありしに
 運なるは思ひありしに
 命なるは思ひありしに
 魂なるは思ひありしに
 魄なるは思ひありしに
 精なるは思ひありしに
 神なるは思ひありしに
 靈なるは思ひありしに



法本屋集巻二

法本屋集巻二



世に世に世に世に

世に世に世に世に

ありのあり
 親親の
 親親の
 親親の
 親親の
 親親の

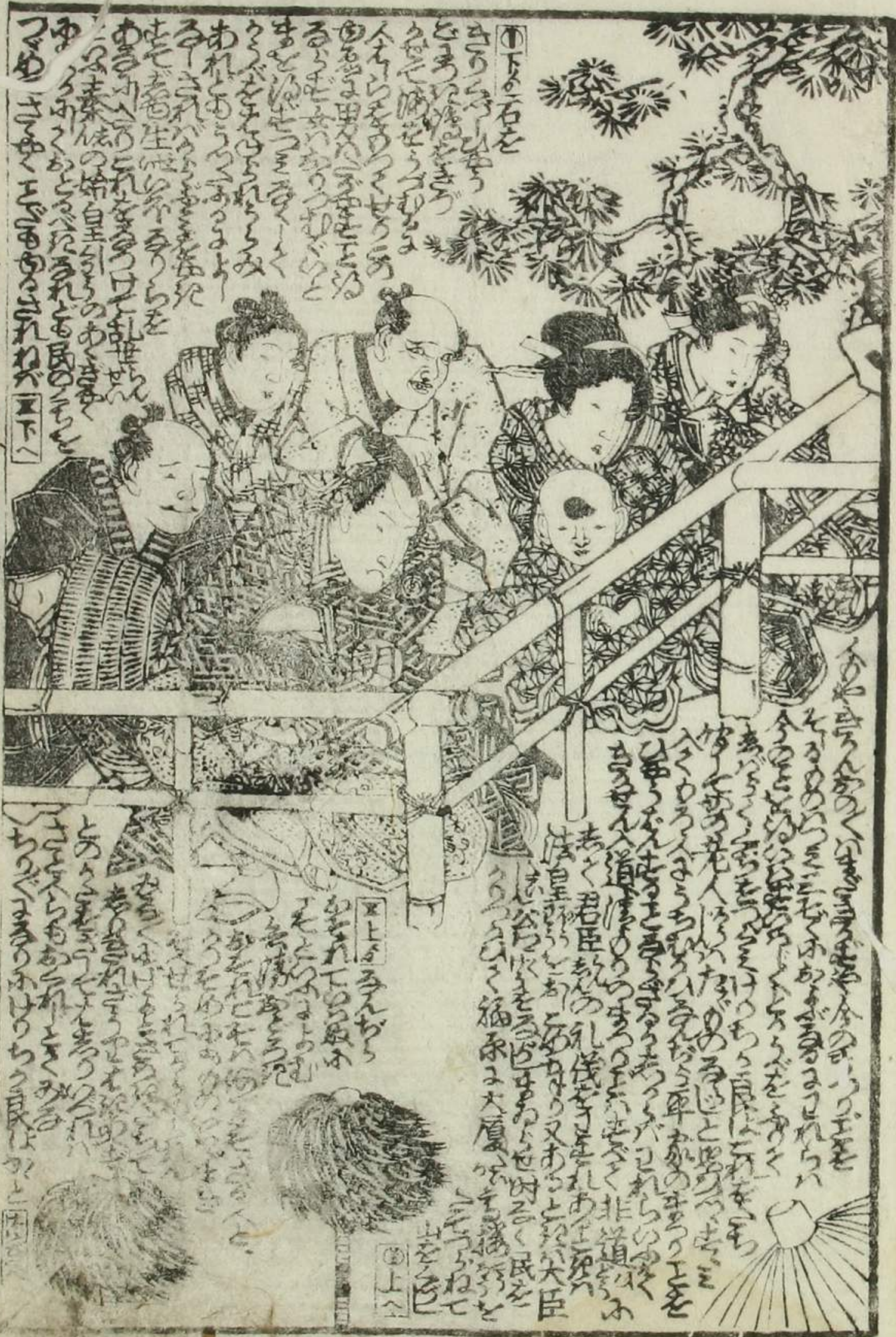
世に世に世に世に
 世に世に世に世に
 世に世に世に世に
 世に世に世に世に

ありのあり
 親親の
 親親の
 親親の
 親親の
 親親の

世に世に世に世に
 世に世に世に世に
 世に世に世に世に
 世に世に世に世に



浄土宗の教義を説く。親の忠告を聞き、太平の世に生れ、世の苦しみを知る。浄土宗の教義を説く。親の忠告を聞き、太平の世に生れ、世の苦しみを知る。浄土宗の教義を説く。親の忠告を聞き、太平の世に生れ、世の苦しみを知る。



浄土宗の教義を説く。親の忠告を聞き、太平の世に生れ、世の苦しみを知る。浄土宗の教義を説く。親の忠告を聞き、太平の世に生れ、世の苦しみを知る。浄土宗の教義を説く。親の忠告を聞き、太平の世に生れ、世の苦しみを知る。



世宗後

上



This page contains a large block of vertical Japanese text, likely a continuation of the narrative from the illustration above. The text is written in a traditional style, with characters arranged in columns from right to left. The text is dense and covers most of the page area.

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or record, surrounding the illustration on the right page.



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or record, surrounding the illustration on the left page.





たのしい... 夜よ... 母の... 父の... 書... け... と... 又...

あつ... 又七日... 七日... 又...

あつ... 又... 又... 又...



たのしい... 夜よ... 母の... 父の... 書... け... と... 又...

あつ... 又七日... 七日... 又...

あつ... 又... 又... 又...



葉木能書乃編



葉木能書乃編

海舟見聞記

らうたうちのちがれいで日夜... 医師... 補海... 水... 病... 宗... 高... 成... 宗... 成...

宗... 高... 成... 宗... 成... 有隠愚者 有奇行者 必有奇罰 必有奇禍 信西老秃題





世宗木下...

...

天のあらはれ... 家傳神女湯... 能胆黒子... 婦人... 神田明神下... 滝沢氏... 弘明元坂田... 坂田所...

國安画



馬琴作

金川 浄書

漢書...

...



月夜に月影を照らす

月夜



月夜に月影を照らす

月夜



中宮... 源氏物語... 平賀... 源氏物語... 平賀... 源氏物語... 平賀...

源氏物語... 平賀... 源氏物語... 平賀... 源氏物語... 平賀...



源氏物語... 平賀... 源氏物語... 平賀... 源氏物語... 平賀...

源氏物語... 平賀... 源氏物語... 平賀... 源氏物語... 平賀...

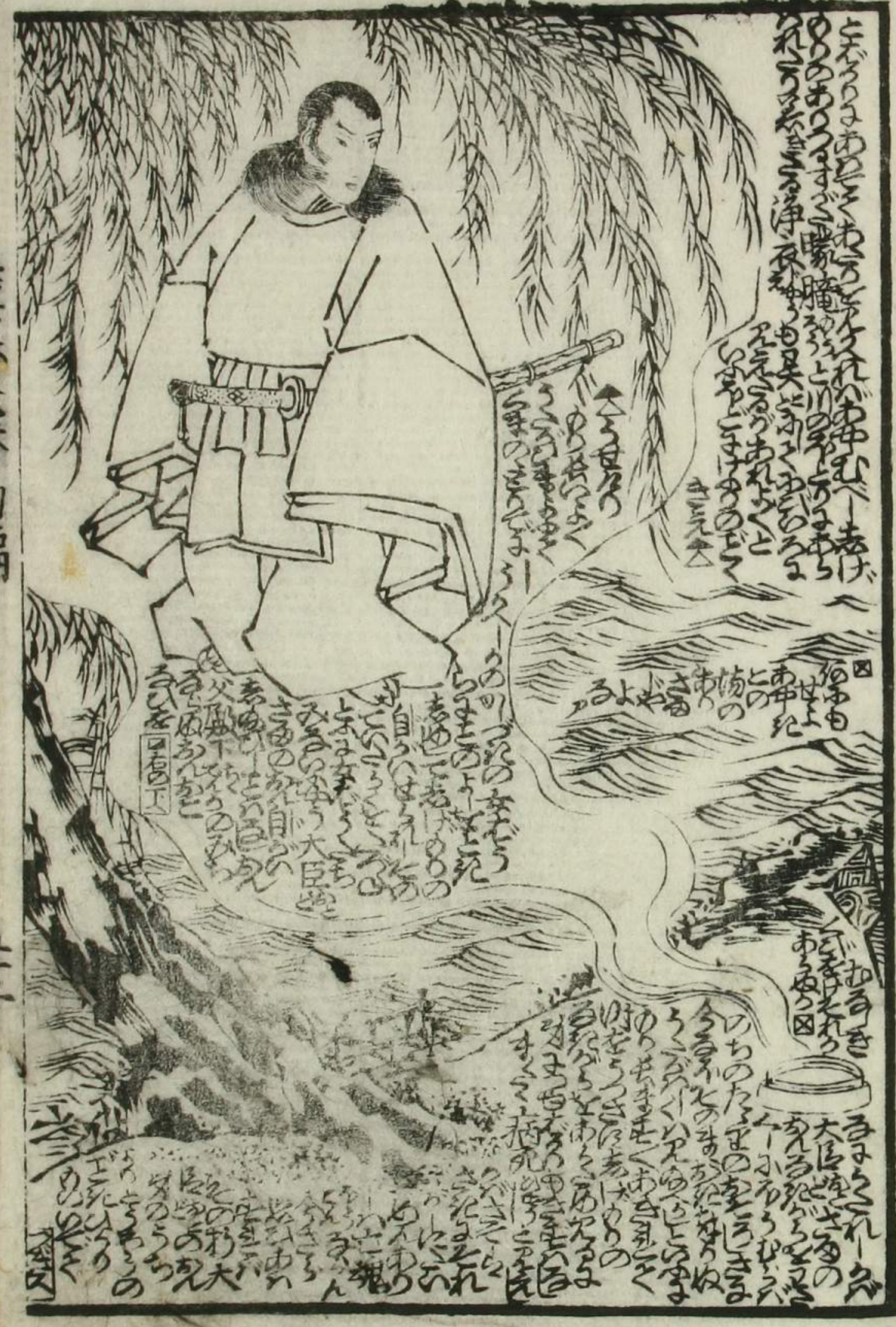
中...
左の中...
右の中...
上の中...
下の中...



中...
左の中...
右の中...
上の中...
下の中...



世葉集



西のくま... 清和天皇御紀... 九十五



五の... 清和天皇御紀... 六





莫楚賈初編

七七



海舟

七七





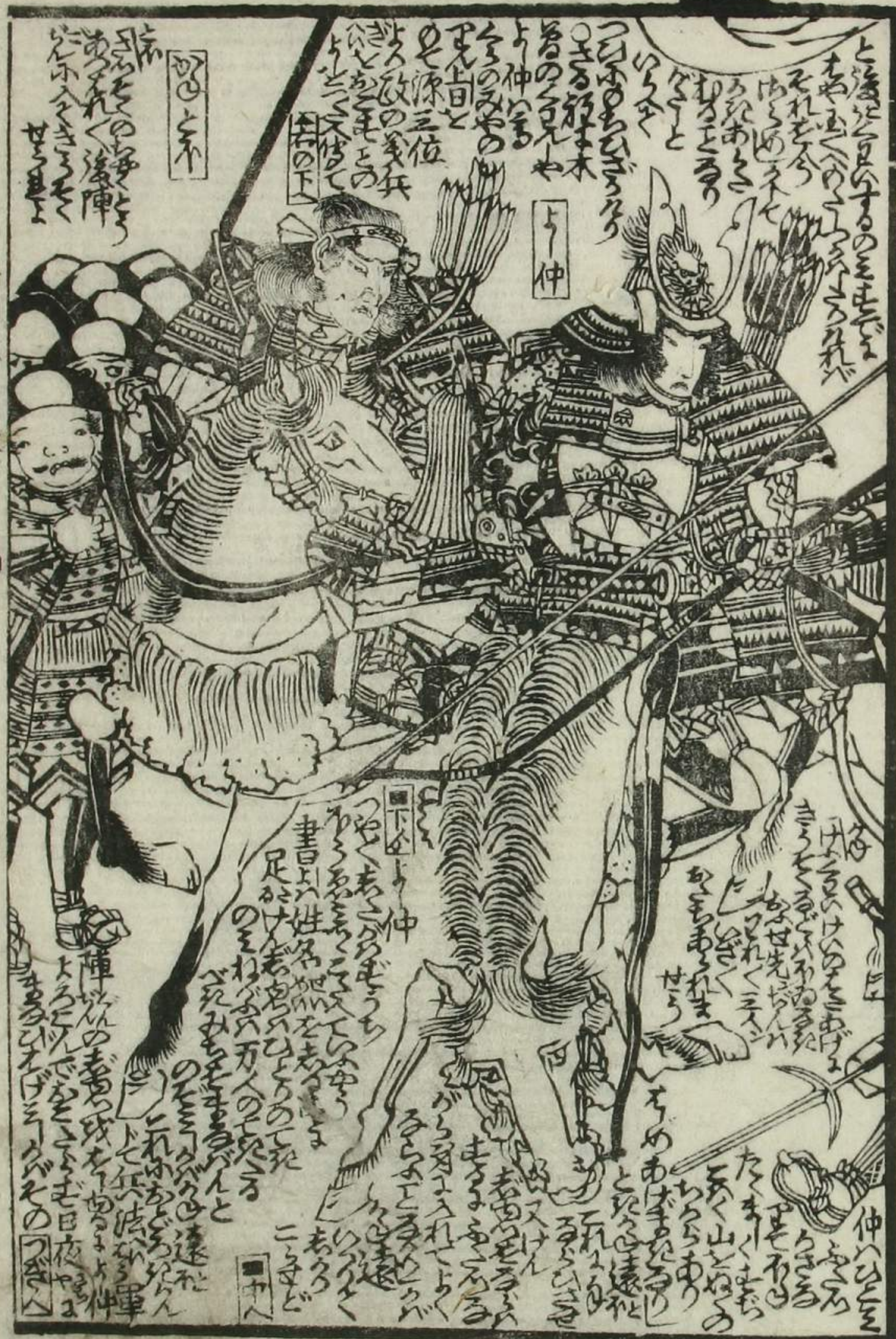
そのころ源頼朝はついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして

左のよ兵らん小よねとていふは平家
のついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして



そのころ源頼朝はついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして

ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
のついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして
ついでに兵を遣はしてついでに兵を遣はして



と海に舟を出すのまはま
とあるはのこころを
それぞ今
はらぬえ
ふれあさ
わらさる
なす
いんや
つひのあひまらり
○まのねま本
るのさんや
よ仲
のあやの
上
と源三位
の兵
とをま
とて

と海に舟を出すのまはま
とあるはのこころを
それぞ今
はらぬえ
ふれあさ
わらさる
なす
いんや
つひのあひまらり
○まのねま本
るのさんや
よ仲
のあやの
上
と源三位
の兵
とをま
とて

よ仲

其本是果更の片

二十



と海に舟を出すのまはま
とあるはのこころを
それぞ今
はらぬえ
ふれあさ
わらさる
なす
いんや
つひのあひまらり
○まのねま本
るのさんや
よ仲
のあやの
上
と源三位
の兵
とをま
とて

と海に舟を出すのまはま
とあるはのこころを
それぞ今
はらぬえ
ふれあさ
わらさる
なす
いんや
つひのあひまらり
○まのねま本
るのさんや
よ仲
のあやの
上
と源三位
の兵
とをま
とて

よ仲

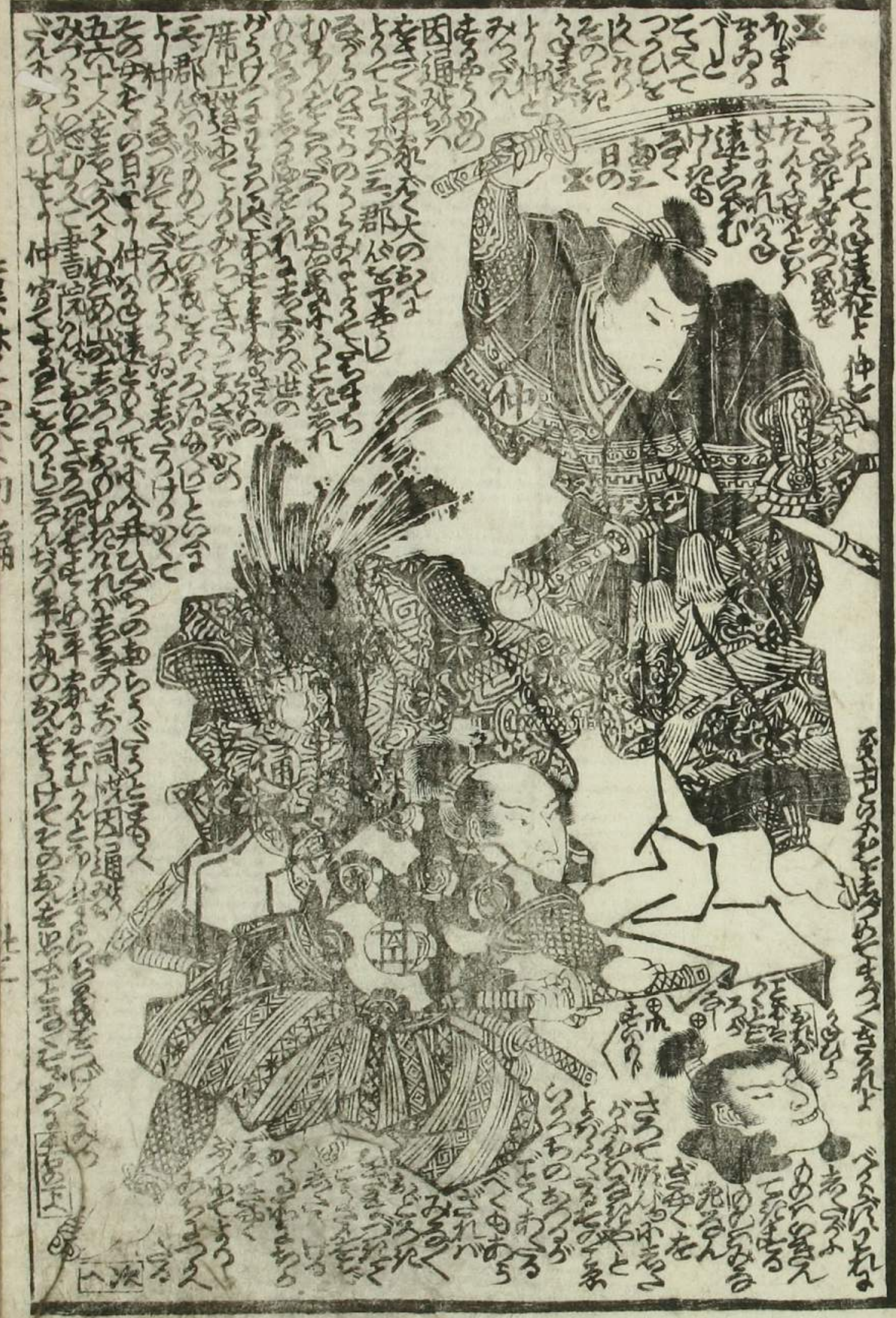
よ仲

其本是果更の片

二十





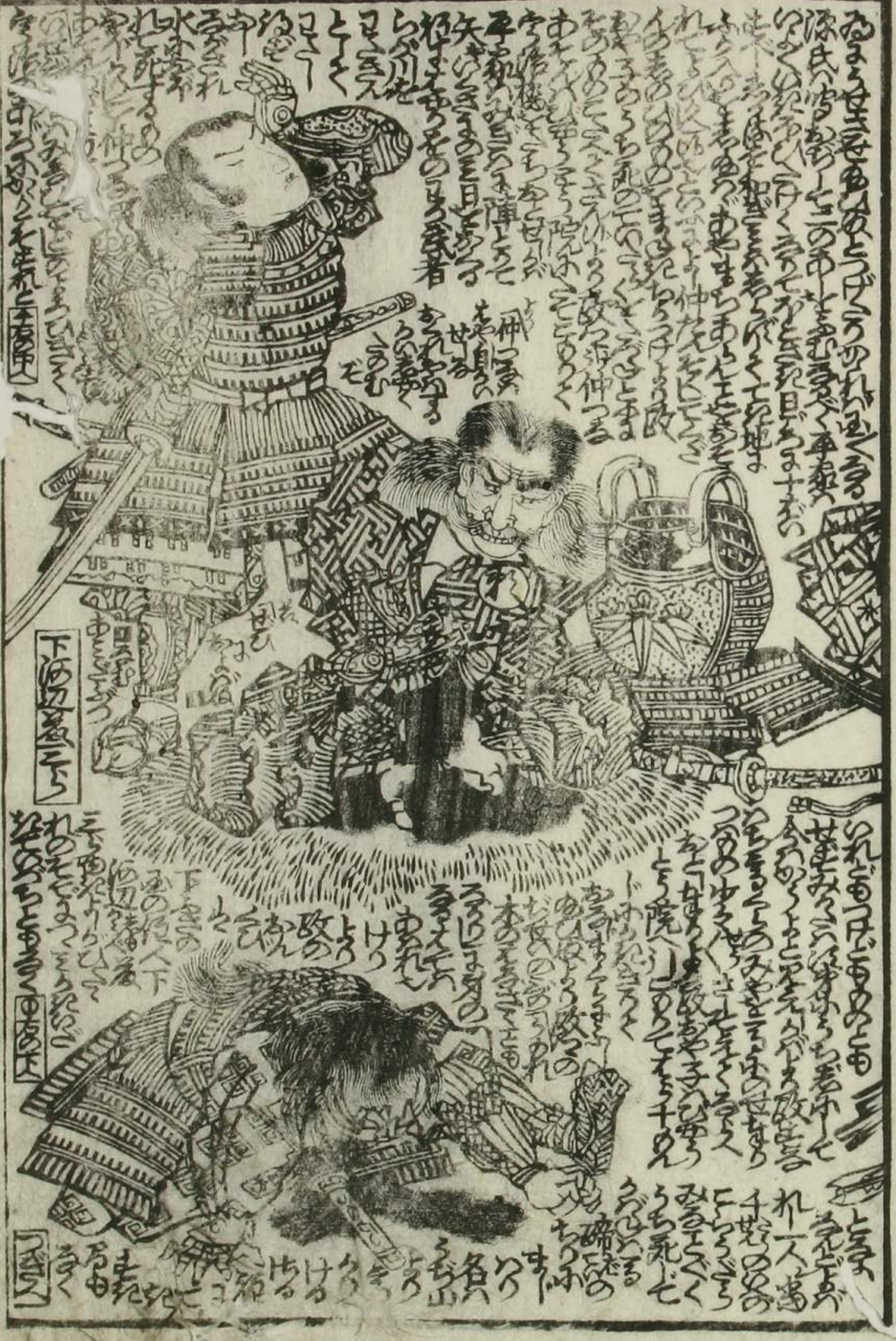






漢楚賽初編

廿六



武蔵守 徳川 家康

十一



徳川 家康

十二



清夜、新編

九十一



家傳神女湯... 精製奇應丸... 熊胆果九子... 婦人... 製茶本家... 弘明... 取次...



馬琴作 國安画 浄書 金川

書林永壽堂新刻目錄

前北齋為先生画 自正月至四月

繪本庭訓往來一冊

文如堂先生書 後編追々出版

白痴物語 六々園著 全二冊

盆画獨粧百古 月花水文著 全一冊

還魂紙料

家紙之文言後集

此此類人の書多し... 故一本文の素と翻... 出魚衣... 此の... 其... 浄書 金川

柳亭種彦隨筆... 道池堂先生書... 中本一冊... 流

山繭養法秘傳抄 北澤始芳大人著 全一冊

此書ハ山繭の順を極めるに於て其の秘法を記し、初めは養蚕の法を述べ、その後に繭の養法を述べ、其の秘法を記す。其の法は、繭の養法を述べ、其の秘法を記す。

画本百千鳥 彩色摺 狂歌入 全三冊

此書ハ百千鳥の流りに繪する様様或ハ人のいまゝのいふやうなる様様を又同列に繪する形を改めんとす。其の物二百有餘あり。其の法を述べ、其の秘法を記す。

彩色摺 狂歌入 全二冊

新形染彩目 前北齋 為一老人画 全一冊

此書ハ前北齋の流りに繪する様様或ハ人のいまゝのいふやうなる様様を又同列に繪する形を改めんとす。其の物二百有餘あり。其の法を述べ、其の秘法を記す。

活金剛傳 初編 角力の撰場 今川 馬撰 全一冊

此書ハ角力場の撰場を記し、其の秘法を記す。其の法は、角力場の撰場を記し、其の秘法を記す。

四十八手関取鏡 角力の撰場 今川 馬撰 全一冊

此書ハ角力場の撰場を記し、其の秘法を記す。其の法は、角力場の撰場を記し、其の秘法を記す。

御免せんの妙茶 全一冊

此書ハ御免せんの妙茶の法を記し、其の秘法を記す。其の法は、御免せんの妙茶の法を記し、其の秘法を記す。

蘭玉屑 全一冊

此書ハ蘭玉屑の法を記し、其の秘法を記す。其の法は、蘭玉屑の法を記し、其の秘法を記す。

漢楚賽擬選軍談 袋入 全一冊

此書ハ漢楚賽擬選軍談の法を記し、其の秘法を記す。其の法は、漢楚賽擬選軍談の法を記し、其の秘法を記す。

代夜待白女辻占 全六冊

此書ハ代夜待白女辻占の法を記し、其の秘法を記す。其の法は、代夜待白女辻占の法を記し、其の秘法を記す。

稗史水滸傳 袋入 全一冊

此書ハ稗史水滸傳の法を記し、其の秘法を記す。其の法は、稗史水滸傳の法を記し、其の秘法を記す。

返る久尔亥月 全一冊

此書ハ返る久尔亥月の法を記し、其の秘法を記す。其の法は、返る久尔亥月の法を記し、其の秘法を記す。

正本製十二編 袋入 全一冊

此書ハ正本製十二編の法を記し、其の秘法を記す。其の法は、正本製十二編の法を記し、其の秘法を記す。

七勇婦傳 第四編六冊

家内女全集 全一冊

新作 合の林 全一冊

鶉權兵衛 全一冊

美艶仙女香 全一冊

吾本問屋 全一冊

